

# 回 会 報

新日本美術協会

事務局  
千葉県柏市大津ヶ丘  
3-17-17-401  
森屋治三方  
TEL 04-7191-6760

編集委員  
本部 小高 峯夫  
富岡 ネム  
大石 亨  
京都 四方 公二  
広島 藤原 清

次号平成25年11月予定

## 平成二十五年総会開催される

六月九日(日)都内ハイライフ・プラザ(いたばし)に於いて、月例委員会の後引き続き二十五年総会が開催されました。

総会は事務局が用意した式次第に則り進行し、総合同会に富岡委員、議長に小宮山委員、書記に住佐委員、議事録署名人に荒木委員が選出され議事に入りました。

議決成立数の確認では必要員数104人に対し出席23人、委任状113人で議決要件はクリアしました。

第一号議案、平成二十四年度事業報告を森屋事務局長が、収支決算報告並びに財産目録の説明を鈴木委員が、監査報告を小宮山委員がそれぞれ行い、異議なしで承認されました。

第二号議案、平成二十五年事業計画案を森屋事務局長が、収支予算案を鈴木委員が説明を行い、いずれも異議がなく承認されました。

議案以外の事項で、早田委員から昨年度来からの懸案として、会活性化の取り組みについての動議がありました。これに就いては土屋委員のプロジェクト立ち上げ構想も既に提案されており、以後委員会重要課題として継続審議することが確認されました。

## 三十七回展迫る 実行委員長 松本 正

東京都美術館において開催されます第37回新日美展の実行委員長に任命されました。微力ながら頑張りますのでよろしくお願ひします。

先日、家で静養中の中尾会長から呼び出しがあり訪ねたところ、実行委員長大変だろうが宜しく頼む、と言われ身が引き締まる思いでした。いつも新日美のことを思っている様子がうかがい取れまし

た。絵に対する情熱はまだまだ衰えず研究を繰り返している様で「今、良い絵が出来そうなんだ」と言っていました、いつもながら凄い人だなと思いま

す。  
37回展、今回のテーマ目標は一般出品者増加と懸案事項の対応と実行組織の強化です、皆様のご協力をお願いします。

36回展はリニューアルした東京都美術館での最初の年でありましたので、前実行委員長中心に力を合わせ最大限の注意を払い検討しました。

結果盛況のうちに終了しましたが、幾つかの反省点もありました。これらの反省点を一点一点改善し37回展に取り込みより良いものにしていきたいと思ひます。又会の活性化の為に、一般の応募者が増えることが必要です。

今回は一般応募者の応募がしやすいように出品料の減額設定や絵画作品10号以上(会員30号以上)としました。油彩、水彩、アクリル、パステル、水墨、版画、陶芸、皮革、染色、工芸、彫塑等出品可能です。

皆様のお知り合いで応募していただける方をお誘いくださいますようお願いいたします。

37回新日美展は10月4日より開催です、搬入は9月27・28日です、この日程に合わせて制作を進めて下さい。皆様の素晴らしい作品で会場が埋め尽くされる事を願っています。日本の中で憧れの新日美展になる様みんな盛り上げていきたいと思ひます。

## 明日の新日美に向けて 事務局長 森屋治三

昨年の第36回新日美展は新装なった東京都美術館での第1回目の開催でした。展示壁面が従来の倍の広さになったにもかかわらず一杯の展

示作品と大勢の入場者により内容のある好評な展覧会となった。

さて、運営にあたる委員会では、36回展終了後、早速、37回展に向け反省事項はないのか、また、将来40回、50回展と継続、発展のための問題点はないのか、等々意見を話し合い検討してまいりました。

そのなかで特に、会員の構成において世代交代の時期にあること、また新日美展への一般の応募者が減少傾向にあるということが重要な問題点として取り上げられた。

前者については、創立37年目ともなると在籍年数の古い会員の高齢化など避けられない面もあること、また後者については、確たる事象はないが、公募展の環境が変わってきているのか、価値観の多様化によるものか、いずれにせよ両者とも会の活動の基本的部分に関わることであり、運営サイドの役員、各委員はじめ会員一人ひとり協力して取り組んでいかなければ、ということになった。

対応策として、まずは、魅力のある新日美ということである。新日美は作家の集団です。会員一人ひとりが自らの目指すところを求めて活動しているわけで、なござりにせず真摯に取り組み追究していくことが肝要です。地方、地域での活躍、納得のいく成果が目的に合うからです。一方組織として活動していくためには運営が大事なことは言うまでもなく、美術界に新風を呼ぶ新日美展、魅力ある展覧会を目指すことも重要なことです。

以上抽象的な話になったが、重要事項への問題対応に話をもとせば、委員会では、数度の継続討議、検討を行った結果、具体策として「応募要項の一部を変更」「広報宣伝強化」で対応することになり、「応募要項」では、一般・出品料を5千円(学生3千円)に、絵画の部では応募規格を10号×150号に改正。「広報宣伝強化」では、ホームページの充実、月刊誌等広告の前回比倍増、マスコミ利用による入場者増、全国主要画材店等への出品要項送付を行うことになり、早速実施したところである。

公募展は、一般応募者があつて成り立つ展覧会である。会員のみで行う展覧会とは別の意味を持つています。新日美の文化活動の成果、実績に対して第24回展(2009年)から東京都、第30回展(2009年)から文化庁の後援が許可されています。「公」の美術団体であること、社会の文化活動に貢献していること、これも忘れてはならないことでしょう。

先日の総会議案「年度計画」に「今年度、将来を見据え新日美の活性化について検討すること」いう項目を付け加えるよう動議があつた。出席者全員に諮った結果、全会一致で承認され推進することとなった。

将来に向け、会員の世代交代、一般応募者減少傾向のことについて述べてきたが、一朝一夕に解決、回答ができるものではない。繰り返すが新日美で発表したい、活動したい、観たい、など、魅力ある会にするためには運営にあたる各委員はもとより会員一人ひとり地道に協力して取り組んでいかなければならないことである。

## 委員コラム 第一回 土屋政夫

### いい絵ってなんだろう

展覧会で。「この絵素敵ね。まるで写真みたい」褒め言葉であるけれど、作者にとつて嬉しくもあり、嬉しくもなし。「この絵、子供が描いたみたい。私にも描けそう」写すなら出来るでしょう。白紙から描けますか? 「この絵好きじゃない。だって何が描いてあるかわからないもの」モチーフが具体的ななら何でも好きになつてくれるの? 「絵はわかるんじやなく感じるものだ」と誰かが口を挟む。

講評会での話「迫真性があつていいね。重厚感があつていいね。諧調が豊かだいいね。雰囲気があるね。色が綺麗で濁りが無くていいね。この絵には動きがあるね。空気感があるね・・・」

「こういう話を素直に受け止めて描けばいい絵になるのだろうか。ロマンティックな絵はいけないの? 軽妙な絵は、単調なのはどうなの? 対極の絵も沢山ある。「いい絵」とはを理解するのは一筋縄ではいかないようです。

写真のように描ける描写力、デッサン力は重要な技術のようです。一方、技術のない子供の絵とか発達障害のある方の絵にもいい絵がある。これはある事物の特徴を純化抽出されたものだからと思ひます。

様々なジャンル、テーマ、カテゴリー、受け手のスタンスにより評価は分かれます。